ビレッジにいることを誇りに思う

施設長は彼らに「イ

ースター

になれ」と言って

います。

社会に対して卑屈になってしまいま

在」と自分たちを見るようになり、

にか「憐れまなければならない存

憧

藤女子大学人間生活学部子ども教育学科 教 授

ば、自由室でに大きな憧れを始 姿を見て、 憧れであり目標であることがわ の子ども達にとって年長組の子ど ている姿など、年少組・年中組現活動) を応援席で真似して踊っ とって学びをもたらす重要なもの か も達が行っているすべてのことが の年長組の子ども達のお遊戯(表 飛ぼうとしている姿や、 縄跳びを手に持ち、 てもらいました。 であることを子ども達から教え したが、この憧れが子ども達に をする年長組の子どもの姿を見 ります。 年少組の子どもが同じように 自由遊びの際に上手に縄跳び 」という感想をもつだけで 私はこの憧れか 最初はただ「か 年長者の行うこ 抱きます。 縄を回して 運動会で らくる わ

がありました。 ができる「織り物」という活動 組の子ども達のみ取り組むこと 交互に針を通していくこと等、 として毛糸を織り込んでいくと た子ども用の織り 私が勤務していた園では、 ものです。 織り物用の針に糸を たて糸に上、 たて糸がはられ 機に、 よこ糸 年長 きる子がいることに気付きまし で、どんどん進めてい 子ども達の中 物を教える時期となった時に、 ように年長組の子ども達に織 年目の頃だったでしょう のですが、 育から異年齢保育に変更された 数人であれば、

進めていくことがで中に少し教えただけ

たまたま理

その後、

園の体制が年齢別保

異年齢保育を始めて2

同じ

う記憶があります。 えることがとても大変だったとい 織り物をクラスの子ども達に教 年長組の担任をした際には、 力や根気の もにとっては少々難しく、 いる作業です。 初めて 集



に保障したいものです。 返されるような生活を子ども つながり、 その活動をやりたいという意欲に ても違います。 達から教えてもらいました。「憧 を学ぶ…。そういった営みが繰り れ」の対象は個々の子どもによっ もの学びとなることを、 も達への「憧れ」が、 その結果、 様々な「憧れ」が 多く 年下の子ど 子ども

進むことにつながったのではない になった時に、活動がスムースに に居たのです。 りと見つめている子ども達がそこ えている教師の姿や言葉をしっか る子ども達の手先、 ているのですが、 自分の活動で使うものを手にはし 様子に気付きました。手元には 子ども達の様子を、 えていた時に、 とを覚えているため、いざ年長組 うに見つめる年中組の子ども達の も教えることが楽になったように なぜだろう… 全体的

のこと

ています。

広島てんしのおうち小規模保育所

園長

青山

邦子

る「おうち」でありたいと願っ

とって、あたたかで安心でき て、そしてここで働く職員に もたちにとって、保護者にとっ

高橋 感じました。 とになると思いますが、 真由美 解力の高い子どもがい たと

> 園」の隣に開園しました。 定こども園広島天使幼稚

を感じる

ワンフロ

小さな園だから、

一人ひと

どこか

の思いにしっかり寄り添

人ひとりの成長をみんなで

元気

喜ぶ毎日があります。

「おはようございます」と子

「広島てんしのおうち」

連携施設である「認

2024年

月

日

このように、私は年長組の子ど 織り物をしている きっとその時のこ 織り物をしてい 織り物を教 食い入るよ が走ったり寝転んだり安心し 緑の芝生の上では子どもたち い声で溢れています。園庭のに遊ぶ子どもと先生たちの笑 て過ごしています。元気に遊 らも活動がよく見渡せ、 アを低い棚で仕切り、 たたかな園舎内は、 通う定員19名の小規模保 生後七週目から2歳児が 食べ、よく寝る生 木のぬく 自園の調理室で作られた

子どもたちの健康な

な一日を願い、

無事の帰宅を

子どもたちと家族の安心安全

と伝える当たり前の毎日は、

よく寝る生活が、

と送り、

お迎えに来られた保

保護者を「いってらっしゃい」

どもたちを迎え、

出勤され

3

護者の方に「おかえりなさ

1

心身の成長を支えて

喜ぶ、

もうひとつの「おう

います。

少人数の

のようです。

島てんしのおうち」

が、子ど

神様の愛と恵みの中で、



広島天使幼稚園とのご縁は、少しの親子ク ラス体験を経て未就園児クラスから始まりまし た。職員の皆様が大変温かく、毎日安心して 通えることに感謝の気持ちでいっぱいです。

未就園児クラスの時から子どもたちの日々の 様子や行事を通じて、先生方が熱心に子ども たちのことを考えて保育して下さることに深い愛 情を感じます。年少からは縦割りが基本で、 1クラスには年少から年長までの子どもたちがい ます。息子は、初めの頃、縦割り保育に慣れ るのに少々時間がかかり、先生や年長さんに沢 山お世話になっていました。親身に対応して頂 いたおかげで、5月には「楽しかった」と笑顔 で帰ってくるようになりました。そして今年の春、



■発行人・発行所/学校法人 北海道カトリック学園 理事長 勝谷

たちは、

日本ではおよそ想像しが

るのです。そして、次の段階、着づき通常の食事ができるようにな

んなにがっつく必要はないことに気

スタービレッジにたどりついた子供

供たちの「夢」についてです。

イ

が数カ月続き、 詰め込むのです。

やっとここではそ そのような状態

いつも考えさせられるのは子

札幌市中央区北1条東6丁目10カトリック札幌司教館内

今年も7月に訪問予定です。 幼稚園が支援している施設です。 を訪問しています。札幌の教会や タービレッジ」という児童養護施設

限り、

もうそれ以上食べることが

ありません。食事のたびにできる などということは経験したことが

できないほどいっぱいご飯をお腹に

心部キダパワン市にある「イ

フィリピンミンダナ

「イース

か

らない状況で生きて

たのです

毎日3回定時に食べられ

る

学校法人 北海道カトリック学園

理事長

勝

谷

太

治

息子が年中になって初めて「今日、ぼくもね、 小さい子の頭いいこいいこできたんだよ」と嬉 しそうに話してくれました。おかげ様で年下の 子への思いやりの気持ちが芽生えてきたことに 感動しました。最近は、運動会で年中は忍者 の催しがあるため、家でも忍者のお話と忍者

います。 状態に置かれた彼らが 犬態こ置かれた彼らが「復活」しや世界の社会の中で死んだような のチャンスを彼らに提供 る。それくらいの望みを持ってほ しいと言っています。フィリピンのい スタービレッジから大統領が出 そのためにはできる限り 将来は

物にあふれている日本で、子供た抱けない社会は病んだ社会です。 ジの名前の由縁です。子供が夢を 保育者の願いでもあります。 子供に夢を与えたいそれは私た ちはどんな夢を抱くのでしょうか。 スタ ヒ

それ がイ

あたたかな愛の中で育つ心

ます。

私たちが彼らを憐みの対象

憐みの対象ではないことを強調

ここでは、ビレッジの子供たちは

としてしまうと、

彼らはいつの間

学園だより No.42

はその状態が続くそうです。今食を確保することに夢中で数ヶ月間

た子どもたちは、まず自分の食事 には悲しい現実です。ビレッジに来

です。そして、将来への望みを持ち

初めて普通の子供の状態になる それを手にして遊ぶようになって

つことができるようになるのはもっ

ともっと先になります。

自分の可能性を知り、

夢

を持

の持つニーズであり、

「夢」と呼ぶ

それは生存に必要な最低限の人間 して眠ることだったと思います。 はおなかいっぱい食べること、 たぶん、ここに来る前の彼らの「夢 たいような辛い体験をしています。

なるのです。

おもちゃを欲しがり

安心

等の遊び道具に関心が向くように

向くようになり、やがておもちゃ ているものや自分の容姿に関心が

べなければ次にいつ食べられるかわ



修行に夢中で今から大変楽しみです。 人間形成の一番大切な土台を育む幼児期 これからも広島天使幼稚園での成長とその喜 び、そして感謝の気持ちを大切に過ごしていき たいです。

③ しゃろーむ

認定こども園長沼カトリック聖心幼稚園

『聖心の祝日』を通して

保育教諭 小林 真希

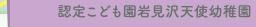
私はカトリックの幼稚園に入職して3年目を迎えました。毎日のお祈りや聖歌、 神様のお話、行事を通して神様を身近に感じ、たくさんのお恵みによって生かされてい ることを感謝しながら、日々子ども達と過ごしています。

認定こども園長沼カトリック聖心幼稚園では、毎年、園名でもあるイエス様の『聖心の日』 をお祝いして園外保育に出かけています。今年は行き先を子ども達と話し合って決めまし た。子どもたちからは、隣の公園から東京やハワイなど幅広く意見が上がりましたが、 自然がたくさんあり、動物を間近に見学する事の出来る『ハイジ牧場』に決まりました。

当日は、独特な動物の匂いを感じながら、目、耳、鼻、肌の4感を使って動物を見学し 好奇心を持って餌をあげようとする子や、恐々近づいてあげようとする子、珍しい生物 の発見にキラキラと目を輝かせ喜ぶ子等、一人ひとりの思いや様々な表情が溢れるひとと

> きとなりました。その中で、動物や虫にも命があり、命がある全ての物に愛 を持って関わる事の大切さを伝えることが出来ていたら嬉しく思います。

これからも、日々の活動や行事を経験していく中で、イエス様の聖心に 倣い、豊かな人間性を育んでいきたいと思います。



連絡帳で心をつなぐ

保育教諭 野田 侑里

私の園では連絡帳を通して、保護者の方にお子様の頑張っていることなどを

お伝えしています。私はAちゃんの連絡帳に、『苦手なグリンピースを頑張って食べたこと』 を書き、A ちゃんに返却しました。翌朝、「せんせーい! | と私のことを呼びながら満面の 笑みでハグをしてくれたAちゃん。その手には連絡帳があり、「ママが先生に…」と恥ず かしそうにしながらもワクワクした表情で渡してくれました。連絡帳には『すごい!と家族で たくさん褒めました!先生もAの素敵な姿を見つけてくださり、ありがとうございます。』と 書かれていました。保護者の方に喜んでいただけたことやAちゃんの素敵な様子を共有 できたこと、温かい言葉をいただけたことが私自身とても嬉しく、この仕事ならではの喜 びであると感じました。また、連絡手段のひとつという認識であった連絡帳が、関わる 人全員の笑顔を作るものなのだと実感できた瞬間でした。

子どもたちと関わる中で、まだまだ手探りなこともたくさんありますが、保 護者の方のご配慮に何度も救っていただきました。これからも責任あ るこの仕事に誇りをもって、保護者の方や子どもたちに喜んでもら えるような保育を心がけたいと思います。





だいすきな マリアさま

保育教諭 松井 千智

当園では、5月の行事に「マリアさまのお祝い」があります。日々、 マリアさまへの親しみを深めながら優しい気持ちを育み、当日は手作 りの花びんに、子どもたちが用意してきたお花を飾ってお祝いをし

ある日Kくんは、登園するなり玄関のマリア像に「マリアさま おはようございます! と手を合わせて、挨拶していました。マリ

アさまのお祝いの日が近づくと、Kくんは「歌をいっぱいうたったり、マリアさまみた いに優しくてきれいな心になったら喜ぶね。」と、マリアさまが喜ぶ事を考えていました。

お祝いの日、Kくんはお母さんと一緒に、お花を持って登園しました。自分の作った花 びんにお花を捧げる事ができ、Kくんもとても嬉しそうでした。お祝いが終わった後、Kくん は「マリアさまに伝えたいことがある。」と言い、マリア像の前で、「いつも見守ってくれて



おしゃれ大好き☆

保育教諭 鎌田 有紀

年少の頃、年長児のアイドルショーに憧れ真似っこをはじめた子ども達。年中 になり、もっと楽しんでほしいという思いで、メイクグッズを増やしました! 鏡の前 でゴムやピンで髪型を整えたり、アイシャドウやリップでメイクアップしたり、好き な衣装に着替えを済ませたら準備完了♪

時間をかけておしゃれをし、付け毛を全部つけていた女の子。隣で友だちがメイクをし 始め、後ろにまだ待っている人がいることに気がつくと、2つだけ残して残りの付け毛をは ずし、「これいいよ!でも2つまでね、あとはまだつけたい人がいるからとっておいてね」と譲っ てあげたのです。周りを思いやる心がこんな風に育っているんだなぁと嬉しい姿でした☆ また、友だちや先生にヘアメイクをしてあげるのも大好きです。あそびの中で役割が

できると、「この色がおすすめですわよ」「キラキラ系でお願いします♪」と自

普段の大人の人の会話や、お店でのやりとりの様子をよく 見ているな~と感心させられる日々です。これからどんな姿 を見せてくれるか、ますます楽しみになりました!





